

# 令和4年度 東京都立東久留米総合高等学校 定時制課程 学校経営報告

## 1 今年度の取組目標と自己評価

### (1) キャリア教育

- ① 総合学科高校の特徴となる「産業社会と人間」や「人間と社会」を中心としたキャリア教育を通じて、自分の将来について考えさせるとともに、「意思決定」能力やコミュニケーション能力を育成した。
- ② 「産業社会と人間」や「人間と社会」の体験活動やガイダンス等において、本校卒業生や市民講師やNPO団体等の活用により、キャリアデザイン力を育成し、ボランティアマインドを醸成するなど、良き社会人となれるよう指導した。
- ③ 進路指導において、経験豊かな教員のOJTや確実な情報共有により、全教員の共通認識に基づく組織的な指導体制を構築し、生徒個々に応じた指導を行った。
- ④ 令和4年度の卒業生の進路決定率は85.2%であった（昨年度81.4%）。  
（大学への進学が37%、専門学校への進学が33.3%、就職が4%、その他25.9%）

### (2) 学習活動

- ① 講座の生徒に応じた主体的・対話的で深い学びを工夫することで、よりわかる授業とするとともに、教え合いや学び合いの意識や態度を育成することについては、専任教員を中心に頻度と精度は向上してきている。
- ② ICT機器や一人1台端末を活用することで、効率的な授業を展開させるとともに、多様な生徒に対して、個々に応じた授業を工夫することについては、専任教員を中心に使用率は向上した。生徒の一人1台端末については、生徒のITリテラシーの向上も必要となる。
- ③ Teams等を活用した授業アンケートや、全定合同授業相互見学の機会、管理職との授業観察後の振り返りにより、全教員の授業力向上を図った。生徒の学力差が大きく、個別最適化が大きな課題となっている。
- ④ 資格取得を目標に定めることにより、学習意欲の向上を図ることができた。また、生徒1名が、取得した資格を活用し、大学の推薦入試に合格した。
- ⑤ 全教科において、令和4年度入学生から3観点に基づく評価を実施した。令和5年度では、今回の結果を検証し、より適切な評価へ繋げる。

### (3) 生活指導

- ① 社会人としてのマナーやTPOについて、理解を深めさせ、適切な判断ができるよう指導してきた。生徒は概ね理解でき、対外的な対応などは、適切に行動できた。
- ② 時間や期限を守ることの重要性について理解を深めさせ、自律的な行動の意識を向上させる指導においては、概ね実施でき、改善につながった生徒も多くいた。年間全生徒遅刻総数は、昨年度2,600回に対し、今年度は2,632回とほぼ同数であり、次年度は減少させたい。
- ③ 今年度、体罰については認められなかった。
- ④ いじめ対策について、いじめアンケートを年3回実施し、生徒の言動・行動に注意を払い、組織的な情報共有を通して、未然防止・早期発見・早期対応に努めた。

- ⑤ 生徒の安全・安心に関しては、今年度の学校評価アンケートでの該当項目において、生徒の肯定的な数値が6割程度と低くなっている、生徒が安心して登校・生活できるよう、再度組織的な指導の取り組みを徹底したい。

#### (4) 特別活動

- ① 久留定祭（文化祭、体育祭）の行事を中心に、生徒の主体的な活動として、自律した運営ができるよう指導・支援した。3月実施のスポーツ大会では、完全な生徒主体の行事として企画立案及び運営するかたちで実施したが、生徒会役員が中心となり、見事に主体的な行事を遂行した。行事終了後の役員生徒たちの充実した笑顔が印象的であった。
- ② 生徒の成就感をもたせるために、部活動などの特別活動にも積極的に取り組ませた。学校行事同様、今後も生徒主体の活動として、活性化させていく。
- ③ 部活動の活動は、週当たり2日以上 of 休養日を設ける。（平日は少なくとも1日、週休日は少なくとも1日を休養日とし、休養日が確保できなかった場合は、他の日に振り替える）1日の活動時間は、長くとも学期中の平日は2時間程度とし、週休日及び長期休業中は3時間程度とした。

#### (5) 保健活動

- ① 学校保健計画を立案し、生徒の健康づくりを学校全体で取り組んだ。
- ② 健康・安全指導及び怪我・疾病等に対する対応の充実を図るために、スクールカウンセラーや専門医などによる校内研修会を3回以上実施した。
- ③ 新型コロナウイルス感染症への対応は、学校全体で組織的に取り組み、予防対策を徹底した。
- ④ 生命尊重の態度を育成するとともに、日常の生徒観察とポジティブな声掛けを行い、生徒情報の校内共有体制と生徒からの相談体制を充実させ、スクールカウンセラーや外部機関との連携も活性化させた。
- ⑤ 生徒の心の悩みの解決のために、スクールカウンセラーと情報共有して、教育相談委員会を中心に組織的に対応した。
- ⑥ 年2回のグループエンカウンター等の実施により、人間関係を円滑にさせ、中途退学者数を減少させるよう取り組んだが、昨年度4名の退学者に対して今年度7名と増加した。
- ⑦ 特別な支援を必要とする生徒について、清瀬特別支援学校の特別支援コーディネーターと連携するとともに、児童相談所・子供家庭支援センター・中学校等の関係機関等との連携を図り組織的に対応した。
- ⑧ 給食指導を通して、食育活動を充実させることができた。

#### (6) 広報活動

- ① 全職員が共通理解のもと、組織的・計画的な広報活動体制を構築し、入学希望者及びその保護者・教育関係者・地域等に本校の特色を説明できるようにしてきた。
- ② 学校案内（パンフレット）を充実させ、ホームページの充実を図り、リアルタイムに更新し、内容を充実させた。また、入学相談会の年間10回実施や近隣中学校訪問により、本校の特色ある教育活動を周知してきた。
- ③ 結果的に、学力検査（一次）の倍率は、昨年度の0.52倍から0.23倍に減少した。次年度以降

の広報活動においては、より一層工夫していく。

#### (7) 学校間連携や地域との連携を図る

- ① キャリア教育や進路指導において、上級学校と連携を密にして、ガイダンスや説明会等を多数開催し、生徒の希望進路の実現を図った。
- ② 新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、できる限り、地域の施設・団体等との連携を積極的に行い、地域の一員として開かれた学校を目指した。
- ③ 年4回の避難訓練やセーフティ教室において、東久留米消防署や関係機関と連携することで、防災安全に対する意識の向上を図った。
- ④ 田無警察署や東村山警察署と連携して、地域のコンビニエンスストア等にも協力を呼びかけるなど、問題行動の未然防止に努めた。

#### (8) 学校経営・組織体制

- ① 企画調整会議を機能させ、全教職員の経営参画意識を高めることができた。
- ② 分掌や教科等の計画的で組織的な業務の推進によって、効率化による労働時間の短縮を図ることは継続できている。
- ③ 分掌や教科等において、計画的・組織的にOJTを実施している。
- ④ 服務事故を根絶するため、サービスの厳正を徹底し、学校運営の適正化に常時努めている。
- ⑤ ライフワークバランスの観点から、全定連絡会を開催せず、副校長間での全定調整を行った。調整不足な点も多くあり、次年度に向けた課題となった。

#### (9) 経営企画室体制

- ① 学校経営計画や予算編成指針に基づき、課題意識を常にもち、積極的に学校経営に参画した。また、限られた予算を計画的・効果的に執行した。
- ② 学校の総合窓口として電話対応や来校者に対して、思いやりの心と品格を重んじて対応するよう常に意識していた。
- ③ 業務全般を理解するとともに、教員と連携・協力しながら業務を遂行して、担当部署のスキルアップを図った。また、委託業者の職員（図書館司書、環境整備職員）等との報告・連絡・相談を密に取りながら、学校教育に支障のないように連携を図った。
- ④ 広報活動に積極的に参画し、学校要覧及び学校案内等の作成に教職員とともに携わった。

## 2 学校評価アンケートの結果概要

- (1) 生徒の「学校満足度」を問う質問項目（「私は、東久留米総合高等学校定時制課程に入学して良かったと思っている。」）では、肯定的評価（5段階評価の「5」または「4」）は、73.8%と肯定的に捉えている（昨年度76.7%）。「どちらともいえない」が、20.4%（昨年度21.4%）。
- (2) 保護者にも同様の「学校満足度」を問う質問項目（「総合的に判断して、この学校に子供を入学させて良かったと思っていますか。」）では、肯定的評価86.7%と生徒よりも学校に対する全体の満足度が高いことが明らかになった（昨年度91%）。

- (3) 「本校の「産業社会と人間」を中心とするキャリア学習により自己の進路に対する関心が高まった。」では、肯定的評価66%（昨年度64.1%）。「どちらともいえない」が23.3%（昨年度26.2%）であった。5割弱から2年続けて6割越えとなり、キャリア教育の充実が図られ生徒の進路意識が高まってきている。
- (4) 学習指導について、学習満足度については、「本校の教職員は、わかりやすい授業の工夫をしていると思いますか。」、「本校の授業は、ICTの活用や生徒の主体的学習の取組に積極的であると思いますか。」、「本校で学力が伸びていると思いますか。」の3項目について質問を行った。「本校の教職員は、わかりやすい授業の工夫をしていると思いますか。」では、肯定的評価77.7%（昨年度73.8%）。「どちらともいえない」が15.5%（昨年度25.2%）。「本校の授業は、ICTの活用や生徒の主体的学習の取組に積極的であると思いますか。」では、肯定的評価63.1%（昨年度59.2%）。「本校で学力が伸びていると思いますか。」では、肯定的評価62.1%（昨年度65%）。授業満足度については、6割以上の生徒が肯定的に評価している。

### 3 次年度以降の課題と対応策

#### (1) 授業力の向上

- ① 講座の生徒に応じた主体的・対話的で深い学びを工夫することで、よりわかる授業とするとともに、教え合いや学び合いの意識や態度を育成する。
- ② ICT機器や一人1台端末を活用することで、効率的な授業を展開させるとともに、多様な生徒に対して効果的となるよう、個々に応じた授業を工夫する。
- ③ 授業観察の振り返りや全定合同授業相互見学の機会を通じて、全教員の授業力向上を図る。
- ④ 指導教諭の模範授業の見学を積極的に推進し、授業改善に努める。

#### (2) 生活指導（安全・安心）

- ① 暴力や体罰の禁止・根絶について、学校全体で共有・徹底し、安全で安心な学校をつくる。
- ② いじめ等、生徒間のトラブルについては、いじめアンケートを年3回実施し、生徒の言動・行動に注意を払い、組織的な情報共有と生徒指導を通して、未然防止・早期発見・早期対応に努める。

#### (3) 中途退学の減少（継続）

- ① 年2回のグループエンカウンター等の実施により、人間関係を円滑にさせ、生徒個々に対応した細やかな指導により、中途退学者数を減少させる。
- ② 特別な支援を必要とする生徒について、特別支援学校の特別支援コーディネーターと連携するとともに、児童相談所・子供家庭支援センター・中学校等の関係機関等との連携を図り組織的に対応する。

#### (4) キャリア教育の充実

- ① 総合学科として「産業社会と人間」や教科「人間と社会」を中心としたキャリア教育により、望ましい職業観を身に付けさせるとともに、進路活動に主体的に取り組み、社会に貢献できる資質を醸成する。
- ② 「産業社会と人間」や「人間と社会」の体験活動において、本校卒業生や市民講師やNPO団体等との連携を行うことによって、社会や地域とつながり、より効果的なキャリア教育を推進する。
- ③ 進路指導において、各分掌・各教科の連携と、経験豊かな教員のOJTや確実な情報共有により、生徒の実態に即した3年間または4年間の綿密な進路指導計画を作成し、全教員の共通認識に基づ

く組織的な指導体制を構築する。

(5) 広報活動の充実

- ① 全職員が共通理解のもと、組織的・計画的な広報活動体制を構築し、入学希望者及びその保護者・教育関係者・地域等に本校の特色を説明する。
- ② ホームページのコンテンツの充実を図り、リアルタイムに更新し、内容の充実を図る。
- ③ 学校案内（パンフレット）を夏季休業前に、より充実して完成させ、教職員による学校訪問や地域住民に配布することで、本校定時制の教育活動を周知する。
- ④ 入学相談会を8回以上実施や近隣中学校訪問により、本校の特色ある教育活動を周知する。